

2020/06/11

公益財団法人全日本仏教会

広報文化部作成

新型コロナウイルス（COVID-19）に関する

アンケート調査「報告」

[アンケート実施に至る経緯]

令和2年1月16日、日本で初めて新型コロナウイルスの発生が確認され、当会はこの発生より約3ヶ月後の4月20日よりアンケート調査を実施しました。

かかる3ヶ月間ではコロナ禍が激しさを増し、当会には全国各地より不安の声が寄せられました。そこで、4月7日に理事長談話として「国の方針を踏まえ、感染防止に最大限注意し、衛生対策をした上で、出来る限りご遺族の意向を尊重し、ご遺族の気持ちに寄り添った対応をするようご配慮いただきたい」と発表し、奇しくも同時期に政府が7都府県に向けた緊急事態宣言、続く4月16日に全国に及ぶ緊急事態宣言を発令したことから、いずれの区別もなく社会全体でコロナ禍への意識を強め、防止策の強化を図らなければならないと考えました。

このアンケート調査は、発生から約3ヶ月間にわたり、日を追うごとに増え続ける感染者やお亡くなりになられた方々、社会環境の変化などから悩み苦しむ方々、そして、寺院における葬儀や法事、行事等をはじめとする社会的な責務としての対応など、様々な問題に起因しています。

寺院は日常的に人の集まる場所であり、年中行事として執り行われる節分会や彼岸会、亡くなられた方やご先祖様を供養する葬儀や法事、多岐にわたる悩み事の相談など、檀信徒等にかかわらず地域や社会に生きる人々と共に活動を行っていることから、その責務は重大です。

いのちの尊厳を説く私たち宗教者は、悩み苦しむ人々を救うことを第一と考えますが、合わせて、その活動の拠点となる寺院の宗教活動が停滞していること、適正な管理運営に大きな影響が出ることも明白であると判断し、先ずはその実態を探り確認するため、調査に至りました。

[アンケート調査の趣旨と内容]

アンケート調査は、寺院並びに檀家・門徒・信徒等から多くの具体的な事例を頂くことで、①コロナ禍に対する意識を持っているか、②防止策を講じているか、③寺院の管理運営状態がどのようになっているか、④心理的な負担があるかなどに重点を置き、当アンケート調査をご覧になられた方々のコロナ禍に対する資料となるように心がけました。以下に実際の内容を記します。

○寺院対象

- ・可能であればお住まいの地域をお書きください。

- ・ 1. 葬儀・法事等の法要や行事を行うことを控えている。(～頃から中止・延期)
- ・ 2. 例年の同時期と比べて事業収入が減少した。(例年の約～%減)
- ・ 3. 寺院収入の減少により将来的な運営に不安を感じている。
- ・ 4. その他、新型コロナウイルス感染症の影響による問題や、お困りのことがあれば、具体的な事例などご記入ください。

○檀家・門徒・信徒等対象

- ・ 1. 新型コロナウイルス感染症の影響により、法事・法要・礼拝等の儀礼に参加することを控えている。(～頃から)
- ・ 2. すでに仏事(法事・法要等)の中止または延期の申込をした。(～頃を中止・延期)
- ・ 3. その他、新型コロナウイルス感染症の影響による問題や、お困りのことがあれば、具体的な事例などご記入ください。

投稿方法としては、FAXまたはメールにて送付いただくものとなっています。5月12日からは、Google フォーム(インターネット上の入力画面)を活用し、比較的簡易に意見を送信できるようにしています。

[アンケート調査の集計]

- 回答期間：2020年(令和2)4月20日～5月31日までの42日間 [継続中]
- 回答件数：「FAX」寺院…243件、檀家・門徒・信徒等…10件 (合計 253件)
「メール」寺院…37件、檀家・門徒・信徒等…4件 (合計 41件)
「Gフォーム」寺院…84件、檀家・門徒・信徒等…22件 (合計 106件)
合計：全体 400 件(内、寺院 364 件・檀家・門徒・信徒等 36 件)

〈寺院の回答からみる実態〉

○地域別

[324件が回答(無40件)]

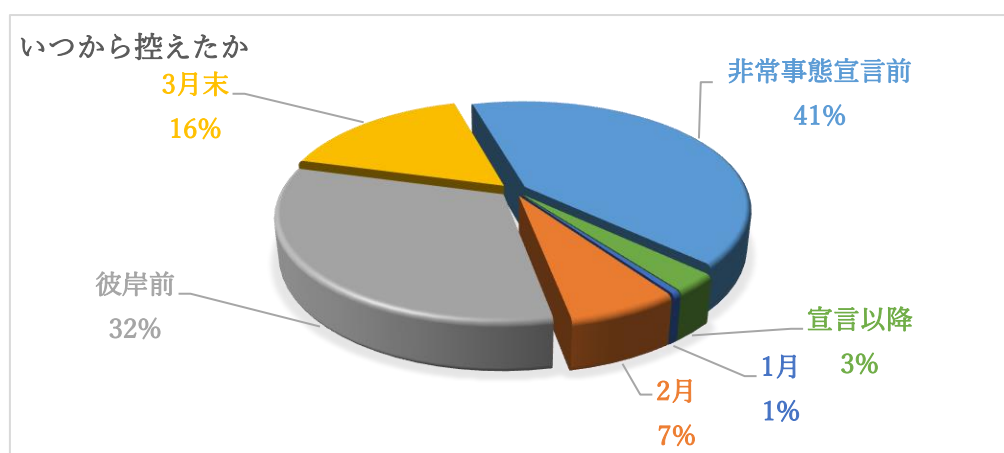
北海道	3	東京都	18	滋賀県	2	香川県	8
青森県	2	神奈川県	13	京都府	3	愛媛県	4
岩手県	1	新潟県	3	大阪府	14	高知県	0
宮城県	7	富山県	0	兵庫県	15	福岡県	7
秋田県	1	石川県	1	奈良県	4	佐賀県	1
山形県	3	福井県	0	和歌山県	3	長崎県	1
福島県	10	山梨県	2	鳥取県	0	熊本県	1
茨城県	6	長野県	1	鳥根県	7	大分県	0
栃木県	3	岐阜県	22	岡山県	14	宮崎県	0
群馬県	3	静岡県	9	広島県	13	鹿児島県	0
埼玉県	99	愛知県	4	山口県	7	沖縄県	0
千葉県	5	三重県	1	徳島県	3	無回答	40

○葬儀や法事を控えているか否か

件数は364件中、「はい：180件」「いいえ：177件」「無：7件」の回答。

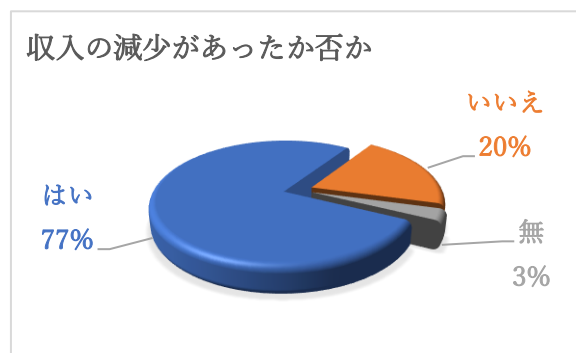


続く、「いつから控えたか」との質問に対しては、180件中177件の回答。

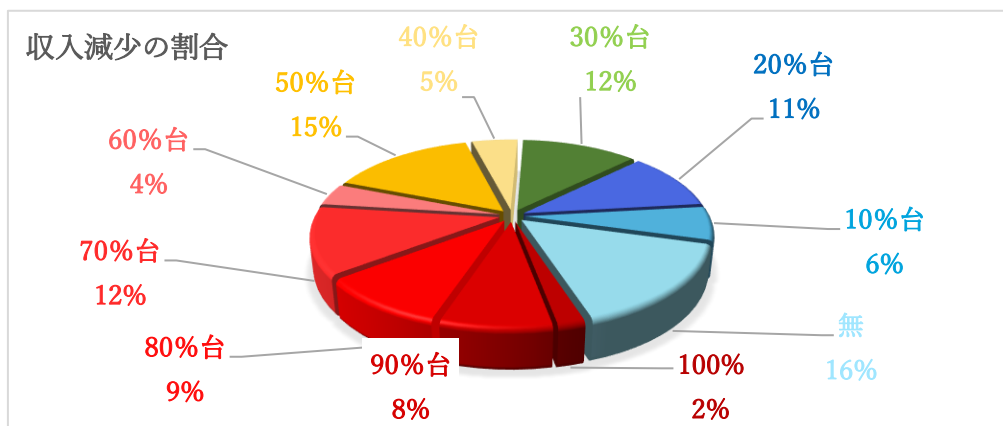


○事業収入の減少があるか否か

件数は364件中、「はい：279件」「いいえ：74件」「無：11件」の回答。

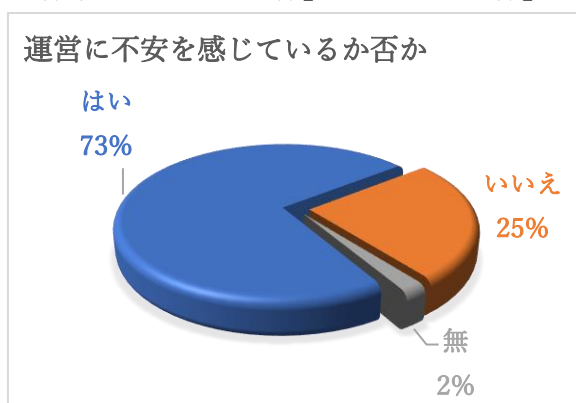


続く、「例年に比べてどの位減少したか」との質問に対しては、279 件中 248 件の回答。



○運営に不安を感じているか否か

件数は 364 件中、「はい：267 件」「いいえ：90 件」「無：7 件」の回答。



○具体的な事例

共通して多く見られた事例と目を引いた言葉と取り上げる。

- ・事業収入が減少した。
 - 月参りや法事を中止または延期したため収入がない。
 - アルバイトしたいが、社会の状況と年齢のためできない。
 - 預金を切り崩して対応している。
 - キャッシングしているが、限度枠を超えたらどうしたらよいか。
- ・寺院にかかる固定費の捻出すら難しい。
- ・対策としてマスクや消毒液を用意するのが難しい。
- ・檀家・門徒・信徒等や地域の方々とコミュニケーションが取れなくなった。
- ・葬儀や法事等の簡略化や必要性がなくなってしまうかもしれない。
- ・緊急事態宣言の解除が分からないため、お盆や施餓鬼会をどうするか。
- ・社会保険に加入し厚生年金を支払っているのに、理不尽さを感じる。

〈檀家・門徒・信徒等の回答からみる実態〉

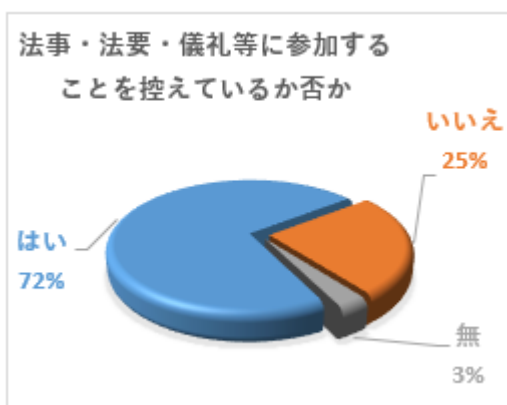
○地域別

[33件が回答（無3件）]

北海道	1	東京都	4	滋賀県	0	香川県	0
青森県	0	神奈川県	2	京都府	2	愛媛県	1
岩手県	0	新潟県	0	大阪府	0	高知県	0
宮城県	0	富山県	0	兵庫県	1	福岡県	2
秋田県	0	石川県	0	奈良県	0	佐賀県	0
山形県	0	福井県	0	和歌山県	0	長崎県	0
福島県	0	山梨県	0	鳥取県	0	熊本県	0
茨城県	0	長野県	0	鳥根県	0	大分県	0
栃木県	0	岐阜県	7	岡山県	1	宮崎県	0
群馬県	0	静岡県	0	広島県	5	鹿児島県	0
埼玉県	1	愛知県	0	山口県	3	沖縄県	0
千葉県	2	三重県	0	徳島県	1	無回答	3

○法事・法要・儀礼等に参加することを控えているか否か

件数は36件中、「はい26件」「いいえ9件」「無1件」の回答。

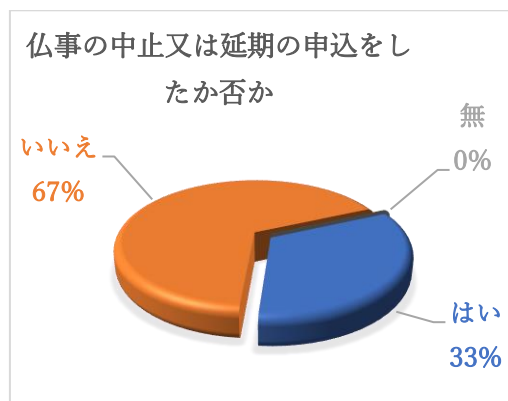


○いつ頃から控え始めたか

2月中	4
彼岸前まで	6
3月末まで	6
非常事態宣言前	7
宣言以降	3

○仏事の中止または延期の申込をしたか否か

件数は36件中、「はい：12件」「いいえ：24件」「無：0件」の回答。



○具体的な事例

共通して多く見られた具体的な事例と目を引いた言葉

- ・お寺関係の行事、仕事がなくなり、皆さんに会えなくて寂しい。
- ・み教えを伝える場が途切れてしまうため、早い完全終息を願っています。
- ・お寺にお参りできない。知人のお葬式に列席できない。県外の家族、親族が法事に参加できない。
- ・うちのお寺は檀家が少なく、お寺がひもじい思いをしてないか心配です。
- ・総代として、お寺離れが進んでしまうのではないかと不安。
- ・檀信徒会では、事前の会員把握や会費集めが困難となり、本年度全体の行事が危ぶまれる状態となっている。また、来年度に影響してくるので心配です。
- ・今まで何十年と築き上げてきたお祭りや祭典ができなくなり、引き継ぐこともできない。

〈集計からみる実態と補足〉

○寺院

「葬儀や法事等を控えているか否か」の質問では、「はい」と「いいえ」の返答数はほぼ変わりがないといえます。特に、3月1日に厚生労働省が「新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために」を公表して3密への意識を高めた時期、4月16日の緊急事態宣言前にかかる感染者増加などを考慮して、人の集まる3月の彼岸会、4月の花まつり等の行事、年回法要や月参りなどの中止や延期に踏み出したことで、防止策に繋がったと考えられます。

またこの結果では、法要等の中止や延期を行っていても、葬儀が入ったら菩提寺としては行かなければならない事情があることなどが、「いいえ」の回答に含まれていることに注意しなければなりません。

「事業収入の減少があるか否か」の質問では、多くの寺院がその状況下にあることが示されています。この時期の大きな行事となる彼岸会や花まつり、法事や月参りを全面的に中止や延期にしたことが減少に繋がっています。特に、月参りのある地域では、その収入が寺院の生活基盤となっているため、それを中止した影響は著しく大きくなっています。

「運営に不安を感じているか否か」の質問では、多くの寺院が不安になっていると示されています。特に、地方の過疎化により、宗教離れ、寺離れ傾向にある社会状況でのコロナ禍は、更なる宗教行事の簡略化や不要とする意識をつくりあげているのではないかと、との不安を拭えない状況が多くみられます。

○檀家・門徒寺院

「法事・法要・儀礼等に参加することを控えているか否か」の質問では、不要不急の外出を避け、人の集まる寺院行事に参加することを控えた方が多いと示されています。

「仏事の中止または延期の申込をしたか否か」の質問では、「いいえ」の返答数が多いと示されていますが、もともと法事が入っていない、寺院が行事を中止しているなどの状況が大きく影響していると考えられます。

〈まとめ〉

アンケート開始より 42 日間で 400 件の回答をいただきました。一部突出して回答数が多い地域もありますが、現況を知る上では比較的広範囲の意見を頂くことができたと思われます。また、このアンケート期間は彼岸会や花まつりの後に行われたもので、3月上旬から4月上旬の傾向を強く示していると考えられます。

今後、非常事態宣言解除後からもお盆や施餓鬼会、秋季彼岸会など7月から9月にかけて、寺院の年中行事が連続するため、更なる現実的な影響が現れてくると予測できます。そのため、アンケート調査の終了をいつの時期にするかは今後の課題と考え、現状報告といたします。

以上

社会全体が不安にさらされない日々を迎えることを、心より祈念いたします。